

このところコロナの感染者が急速に減少し、緊急事態宣言も解除され、少しほっとしてきました。私たちはK子さんからお誘いを頂いていた北軽井沢行を、12日に三年ぶりに実行しました。

早朝暗いうちに家を出て、9時前に山荘に到着しました。北軽井沢は浅間山麓、標高1100mにある別荘地です。この時期になると、気温はぐんと下がります。北軽井沢の山林はカラマツですが、葉を落として、裸になった枝の間から日の光が通り抜けるようになります。紅や黄に色づいている落葉樹もあり、秋たけなわです。Kさんは、前庭の赤松を数本切ったと言われました。庭が広々とした感じになっていました。さっそく、採れたてのご当地野菜のお味噌汁、カボチャの煮物、漬物の朝ごはんを頂きました。



空気は澄んでいて、気持ちはよくても、肌寒い。すぐに、炬燵に足を落として、ほっと一息つきました。夏には賑わった別荘地も道沿いもひっそりとしていますが、社交的なK子さんには仲良しが何人もおられて、そのお一人が開いておられる林の中のカフェに案内してくれました。教会にも行っておられるマダムはK子さんの牧師夫妻だからと敬意を表して、コーヒーをご馳走してくださいました。マダムは山羊を3匹、美しい鳩を二羽飼われていました。小屋に隠れていた山羊は私たちの気配を感じるとすぐに出て来て、おねだりするように柵越しに顔を出しては後を追います。草をむしって口もとに持っていくと、すぐにむしゃむしゃ。山羊といえば、髭があり、骨ばっていて、おじいさんを連想しますが、こちらの山羊たちはとても肥えていて、人懐こく、元気でした。



テラスでコーヒーを飲んでいたお客さんが二匹の犬を連れていました。大型犬のほうは床にべったりと這っていました。アイリッシュ・ウルフ・ハウンドという珍しい種類で、初めて見ました。とても大きく、おとなしく、狼用の猟犬とは思えないほど優しい目をしていました。7歳だけれども、もう寿命とのこと。こんなに可愛いのに、残念で、長生きしてねと、精一杯撫でてやりました。

しばらく、カフェで、楽しい時を過ごしてから、標高1130mのところにあるホテルの温泉に行きました。K子さんのお薦めの温泉です。数年前、絹の湯という温泉が近くにあり、アブ除けにうちわを持って入ったことを思い出します。そこは閉店とのこと。観光業も大変です。

浅間山は240年ほど前に大噴火し、火砕流により、甚大な被害を与えました。最後に流れ出た溶岩が鬼押し出し園に姿を留めています。その近くにあるホテルの敷地の地下深くから汲み上げた温泉は「鬼押温泉」と命名されています。私好みの、源泉、かけ流しであり、露天風呂もあり、木々や岩々を眺めながら、浅間山の大自然に身をゆだねる喜びを味わいました。

